

【高等学校用】
令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立武雄高等学校
1 前年度 評価結果の概要	①「グローバル教育」、「地域との連携」、「校内美化」については高い評価が得られた。特に「グローバル教育」、「地域との連携」については学校目標の一翼を担っており、今後もなお一層の活性化を図っていく。また、中高の連携事業は継続し、小グループでの交流も推進し連携を活性化を図る。 ②進路実績については、国公立大学126名の合格であり、充実した指導体制構築を進めていく。 ③ICT利活用教育については、生徒の満足度は高く、電子黒板を使っている授業も定着した。生徒の主体的な学習の推進については、学校全体としての取組は依然として課題となっている。 ④災害ボランティア活動、校外活動、留学・海外との交流事業等に積極的に参加した。また、地域とつながる高校魅力化プロジェクトとして、地域課題探究や地域貢献活動について内外から高い評価を得られた。 ⑤多様な悩みや困り感を抱えた生徒が増加している。定期的に開催される教育相談連絡会は、生徒対応において統一した理解と指導方針が共有され、一定の効果があった。今後も福祉分野・医療分野や児童相談機関、NPO法人等を含めた外部との連携を効果的に活用し、さまざまな問題に対して対処しなければならない。 ⑥武雄高校だよりなどの広報活動の取り組み、HP、プレスリリースの積極的活用ができた。また、PTA総会については、事後報告会も実施し、出席率60%を超えたが、出席率向上のための工夫が必要である。 ⑦県教育委員会が主催する各種研修会に多くの教職員が参加し、研修の成果を生徒に様々な場面で還元できた。また、職員一人ひとりの校務の量的な負担軽減を目指し、校務の効率化のために部活動の活動時間や課外活動の精選や縮減、校内の組織や会議の見直しを図った。校務や学年回の組織的な運営を必ず実践し学校運営の活性化に繋げる。
2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する

3 本年度の重点目標	①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進 ②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現 ③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進 ④地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成 ⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成 ⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進 ⑦教職員の指導力向上、働き方改革を踏まえた機能的・効率的な学校運営による組織力の強化
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○教職員の指導力向上	○大学入試研究会を各教科で年2回実施する。 ○各種研修会に10名以上の教職員が参加し、基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。	B	・各教科大学入試問題を教員個々の担当に応じて解き、授業の中で生徒へ還元できた。また、大学入試共通テストについても、実施前に、共通テスト対策模試の分析を行い、生徒の得点アップに繋がった。 ・大学入試の研究会や講習会がほとんどオンラインになった中、10名以上の職員が参加し、入試問題や入試動向等の研究を行った。	A	・県西部地区の中核校として、学力向上に注力していただきたい。 ・共通テスト対策だけでなく学びへの意識・態度の変化への対応力を身に着けることができるような指導の工夫を期待する。 ・主体的な学びの推進を期待する。
	○生徒の実力養成	○全国模試総合偏差値60以上を各学年110名以上にする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、模擬試験の結果の検証し、授業方法を見直し、新たな目標を設定をする。	B	・1月の全国模試でも偏差値60以上の生徒は2年生で60名、1年生で56名と目標値に大きく及ばなかった。 ・各学年の教科担当者会議もコロナ感染症拡大の影響から行えない回もあったが、各学年2回は実施し、各教科で生徒の学力や課題について分析し、各学年担当で共通理解を図ることができた。 ・生徒の学習時間は各学年増加した。	B	・教育改革の方向性に照らして、全国模試偏差値などの数値目標設定の妥当性の検証が必要である。学びへの意識・態度の変化に視点を当てた指標を工夫すべきである。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	○ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりや心を育てる。校外活動に参加した生徒、全生徒数の50%以上 ○人権教育の全体計画に基づいて授業【人権・情報モラル】を行った教員80%以上	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外におけるボランティア活動やイベント等の個々の活動の意義を明確にし、また関連するさまざまな情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武陵祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育む。	B	・ホームルーム活動で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から公共の場所でのマナー、感染者への偏見防止について日常的に啓発を行った。 ・校外活動は新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの活動が中止となり、例年のような参加ができなかった。 ・全校での進路保障学習、各教科やクラスにおいての人権教育を行った。	B	・コロナウィルス感染症拡大の影響で非言語的コミュニケーションが伝わらなくなってきた状況下で、オンラインの良い部分を取り入れ、中止になった校外活動の在り方を検討・推進していただきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に努めるとともに、認知事案に対しては早期解決に努める。 ○いじめ防止(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)や教育相談の体制について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することでいじめの起こらない雰囲気醸成する。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等より、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育を通して思いやりや心を育成する。	B	・いじめの認知事案は4件(2月末現在)であり、県教委にも報告し早期解決に努めている。また、学年集会や学年独自のアンケートにより今後の防止策も講じることができた。 ・早期発見やいじめが疑われる事案に対しては、学年主任、担任などが本人や保護者から聞き取りをし丁寧に対応している。 ・教育相談体制については、いじめで認知した生徒のSC(スクールカウンセラー)による相談を行った。また、組織的な対応ができていると回答した職員は、75%であった。	A	・友人関係の在り方について、「同志」的な結びつきを推奨する視点をもるべきである。幼稚な交友から脱却して、互いに相手を尊敬し、共に良い刺激を与え高め合い、進む道は別れても生涯の友となる関係を求めていく姿勢を学ばせ、「いじめ」の卑劣さも理解させてほしい。 ・いじめ事案については素早く適切に対応している。
	○学ぶ意欲のある生徒への対応	○教育相談室の積極活用で、生徒が授業に参加できる環境を作る。 ○授業の欠課数を極力減らす。	・SCの活用や教育相談連絡会、特別支援教育委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。同じように保護者に対してもSCの利用を進める。 ・教育相談室を開放し、利用しやすい雰囲気を作る。 ・学びたいが教室に入れない生徒の把握を行う。	B	・様々な生徒指導上の問題が解消できた場合、教育相談的な立場からの参加に課題を残した。 ・SCへの相談件数は延べ43件で昨年比2件増(生徒と保護者一緒)である。積極的な利用が生徒のストレスの発散になっている。教育相談室から授業に参加する生徒もいるなど、効果的な利用はなされつつある。	A	・欠席者の減少については要因を考察して今後に生かしてほしい。 ・毎月発行されている「保健だより」も学校評価に反映して、意識向上につなげていただきたい。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○校内環境美化と学びの場所(教室等)の整備に努める。 ○健康診断を有効に活用し、健康な体づくりに努める。体調不良による保健室利用の生徒の数を減らす。	・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だよりを通して、健康な体づくりを目指す啓発活動を行う。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・前日に休み、早速の生徒が登校してきたら、様子を見る。	A	・ごみの持ち帰りが浸透している。ゴミ箱不設置による消しゴムの屑の対応は検討中である。 ・用務員の方の協力で1年、花でいっぱいであった。 ・保健だより(毎月発行)などを通して、健康について考えさせることができ、保健室の利用者が前年比約200件減った。 ・職員の高い意識の中で行われた。	A	・ゴミゼロ運動も社会的・地球的視点から取り組まれているものと理解している。生徒たちの自己認識の転換として、家族や地域社会から「支えられる」存在から、家族はもちろん他者や社会を「支える」存在への頼もしい変貌を期待する。
	●安全に関する資質・能力の育成	・規則の遵守、防犯安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ・加害としての交通事故件数〇に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・定期的に服装頭髪検査を実施し、武雄高校生としてふさわしい身なりを意識づけける。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	B	・SNSによるトラブルがあり、SNSの取り扱いについて学年集会やホームルームで注意喚起を行い、情報モラルを意識づけた。 ・3学期始業式が休校となり、服装頭髪検査を実施できなかったが、年間7回行いきちんとした身なりを意識づけている。 ・交通事故が4件発生し、3件は自転車による事故であった。交通マナーについて自転車通学生の集会を行った。	B	・SNSなどの情報リテラシーが未熟な生徒に対して、不幸なことにならないようにモラルも含めて細心の注意をしながらの指導をしていただきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間・年380時間)を遵守する。 ○職員が平均10日以上を年休を取得できるようにする。 ○完全退勤時間(22:00)の厳守、振休の完全な実施、様々な休暇の取得の奨励などを行う。	・週休日の部活動の練習時間の削減、休養日の確実な設定、顧問の交代での指導を行う。 ・出張業務の精選、会議時間の短縮化、校内メールやメッセージ機能での情報の共有を行う。 ・閉庁日の設定や校内LANの稼働時間の短縮を行う。 ・留守番電話機能を使い、職員が退勤しやすい環境を整える。 ・分掌組織の改編や業務分担内容の見直しを行う。	B	・1月末までの時間外在校時間の平均が、昨年がつき57.3時間であったのに対して、今年は44.1時間と大幅に減少した。 ・時間外在校時間が月100時間超や80時間超の職員も、昨年度は1月末まで延べ52名と59名であったのに対して、今年度は12名と18名と大幅に減少している。この結果からも働き方改革の意識が徐々に浸透してきたと思われる。 ・年休取得も昨年度より若干であるが、増加している。 ・留守番電話については、対応する職員が土日祝日の留守番電話に対応することになるので、今後の対応について検討したい。 ・2月より新しい出勤システムが導入された。職員が十分に活用し、働き方改革につなげられるように周知していきたい。 ・新型コロナウイルス感染予防の観点から今年度多くの行事を削減した。その中から見直しを進め、削減していく。	B	・組織改編、校務分掌・業務文分担内容見直しをして十分な職員数が確保できているのかの視点で、検証をしなければ改善にならないと思う。 ・生徒と向き合う時間の十分な確保につなげてほしい。 ・効果が出ていない業務、やらなくてよい業務などについて再検証し省力化の実践を期待する。 ・昨年度比で大きな改善がみられる。今後は平均ではなく個々のレベルでの達成ができることを期待する。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○魅力と活力ある高校づくり	◎地域との協働活動・異文化交流の推進	○地域課題の理解のため、講演会を実施し、武雄市と協力し総合的な探究活動を充実させる。 まちづくり事業に参加した生徒の満足度80%以上 ○地域の魅力を理解し、地域の将来を考える力を育む。 ○地域の活動・多文化に触れる機会を設定し、海外研修や異文化交流会への参加者を増やす。	・武雄市と連携を深め、地域のリアルな課題をもとに現状を探る。また、地域の課題解決に向け魅力あるプランを提案できるように総合的な探究の時間等を利用する。 ・武雄市のコーディネーターと連携し、昨年度からの武雄市のまちづくり参画事業を進展させ、地域との協働活動に取り組む関心を高める。 ・異文化交流事業として、状況を見ながら可能であれば、令和2年度も3月にオーストラリア海外研修を計画する。	B	・武雄市との協力により実践活動が行われ、その成果をもとに2学期以降の協働学習で、地域課題解決に向けた取り組みが行われた。その成果についても校内での発表の機会を設けることができ、充実した活動ができた。 ・校外での活動でできにない状況であったが、かえて武雄市との頻繁な情報交換ができ、武雄市の柔軟な対応で実践活動ができた。これを来年度の活動に生かせるようにしたい。 ・オーストラリア研修については、次年度も国内外の状況をみながら検討することになる。 ・海外留学生との交流は充実しており、生徒たちにより影響を与えている。	B	・地域協働活動に取り組んだ生徒の堂々とした発表は素晴らしい。今後はコロナ対応でできなかった中高連携事業、オーストラリア研修について充実していただきたい。 ・まちづくり参画事業に参加した生徒の満足度が80%以上ある点は今後の活動のポイントで、個人的な科目の勉強と集団的な地域での勉強のバランスが魅力につながると思う。 ・教職員自身も地域社会に出て行き、様々な組織や人々と関わる機会を設ける工夫を望む。

5 総合評価・ 次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から行事の縮小・中止が相次ぎ、各項目とも当初の計画から何度も変更を重ねながら実施していった。その中で必要のない行事や効率的な方法が見えてきた部分もあり、それを来年度生かして業務改善や働き方改革につなげていきたい。 ・今年度の進学状況の結果から考えると「学力の向上」については、しっかりと養成されていると考えられる。しかし、提言にもあるように数値目標が以前のままであり、現実とあっていない部分があるので来年度見直しが必要である。 ・毎年、授業や講演などで情報モラルに関する教育を行ってきたが、今年度もSNSを介した問題が起こった。来年度は、更に徹底して指導をしていき、いじめや不幸な事件が起こらないようにしていきたい。
--------------------	--